



木村奈保子の音のまにまに | 第57号

心が傷つき、抑圧されたヒューマン・モンスターは若者たちに共感を生むのか？

2023-07-01 ONLINE連載 エッセイ 木村奈保子

夏は、ホラーの季節と言われるが、楽しいのは、若いうちだけなのだろうか？

ホラーキャラクターのセンスも時代とともに変わり、昨今は、よりえぐいレベルにエスカレートしている気がする。
よりモンスター寄りの心理描写に力が入っているのは、偏つた人が、よりモンスター化してきていることに影響しているのだろうか？

笑えるアイディア作長の低予算ホラー時代の昔から、昨今は笑えない恐怖で、より残酷なサイコキラーが次々登場し、若者受けしているようだ。

若い映画人の登竜門「A24」スタジオの勢いが増している今日この頃、ヒット作「ミッドサマー」（2019年、米）は、監督の力量はあるものの、作り手の視点については、疑問が残る。
つまり、どんなにおどろおどろしい恐怖の世界を扱っても、正義の視点で描く姿勢がはっきりしていれば問題ないのだが、そこが弱く、えぐい演出が強調されてしまう。

カルト教団の信者らしい老人が誰から飛び降りるも、死に損なったため、周囲の若者たちが、追い打ちをかけるように老人の顔を石で打ちまくるシーンが、特に、重い。
この老人役が、若いころは世界一美しいウィスコンティ俳優、ビヨン・アンドレセンだけに、なんとも、作り手のサディスティックな悪趣味を窺せつけられた思いがした。

過去のスターを役柄とはいえ、存在を壊すほどズタズタにしてしまうやり方で、ホラーの遊び心は感じられず、嫌な思いしか残らない。
心ある映画人なら、決してできないであろう発想だ。

ただ、これほどのエグい表現をしたのは、映画に描かれた恐るべきカルト宗教の団体のえぐさを伝えたかったのか？
そうだとしたら、賞賛すべき部分もあるのだが、作り手の正義の視点があいまいなため、残酷趣味に見えてしまったのは残念だ。

一方、映画「ジョーカー」（2019年、米）は、その点、底辺の環境に生きる人間が、汚れた社会の中で狂っていく姿が、共感性をもって描かれ、視点も明確な社会派ホラーといえる。

ちなみに、わが敬愛する狂気のバスターアキター、ホアキン・フェニックスが、「ミッドサマー」の監督、アリ・アスターの次回作に主演するという。
ホアキンは、アスター監督の残酷趣味さえ吹っ飛ばす強烈な芸の力と存在感を示すに違いない。だから、嫌いな作品もあなどれい。

低予算ホラーは、常に若者の間で受け入れられてきたジャンルだが、“お金を使わずに、面白いことを考えついで、世の中に認知させる”というビジネスマーケットとしても重要な位置にある。



さて、A24製作の新作ホラー「パール」（2023,7月公開）は、スターになりたい田舎の少女が凶悪に変貌していくヒロイン物語。
オープニングでは、彼女がしれっと動物を殺すシーンもあり、ぞくぞくとする。
母親に支配され、父親の介護をさせられて、自分を酷使するだけの人生の中で抑圧されたヒロインは、いかに変貌を遂げるのか？
シリアルキラー役の女優、ミア・ゴスがなんとも不気味で、マニャックなキャラクターだ。
存心がリアルで、怖すぎて、笑えない。
歌って踊るシーンは、下手すぎて、見せ場にならない。

ただ、自分はスターになると思い込んでいる病的なヒロインだから、芸がある必要はないのだろう。
ドヘタな歌でも笑えず、恐怖を感じさせるから。

母親やヤングアダラーの社会背景を抱えて、誕生したヒロインが、顔のネジを狂わせて、なりふりかまわず行動していく姿が、どこまでも恐ろしく不気味に描かれている。

大人たちのエゴにより、偏つけられ、抑圧されたヒューマン・モンスターはいまどきの若者たちに共感を生むのだろうか？

映画は、“誇張”だが、社会を写す鏡である。
ただ、過剰表現になると、社会派から遠ざかり、低俗なエンタメとなることがある。
境界線は、いつも微妙だ。

40年前の「エクソシスト」（1973、米）は、当時、観が180度回転したヒロインの演出が過度であったとしても、アメリカでは宗教家と精神科医のそれぞれの視点から、かんかんがくがくの論議が行われた。
エクソシスト（悪魔払い師）は、人間のなかに忍び込んだ悪魔を追い払うことができるのか？
本当に、人間の魂に悪魔が入り込むことはあるのか。はたまた、精神的病による狂気の沙汰だったのか？
心の問題を扱う映画の力は大きい。

MOVIE Information

『Pearl パール』7月7日（金）TOHOシネマズ日比谷ほか全国ロードショー
【監督】タイ・ウェスト
【脚本】タイ・ウェスト、ミア・ゴス
【出演】ミア・ゴス、デヴィッド・コレンスウェット、タンディ・ライト、マシュー・サンダーランド、エマ・ジェンキンス＝ブーロ
【配給】ハピネットファントム・スタジオ
【原題】PEARL/102分/アメリカ/字幕翻訳：丸山 亜穂
© 2022 ORIGIN PICTURE SHOW LLC. All Rights Reserved.
【公式HP】happinet-phantom.com/pearl/

NAHOK Information



木村奈保子さんがプロデュースする“NAHOK”は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「温度調整」「衝撃吸収」機能の楽器ケースで、世界第一線の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。
Made in Japan / Fabric from Germany
問合せ&詳細はNAHOK公式サイトへ

PRODUCTS

2コンパートメントフリーケース「Deniro/wf」
（クラリネット・フルート対応）

2コンパート フリーケース「Deniro/wf」は、ハードケースを収納する側とかばんとして使用する側を完全に仕切り、2つのコンパートメントで作られたNAHOKフリーケースの決定版です。



新作のフリーケースを手に笑顔のフルター・アウアーさん（ウィーン・フィル首席奏者）（6月29日東京オペラシティアンサンホール楽屋にて撮影）

>>>BACK NUMBER

- 第50回：コンプレックスから始まったモリコーネの「映画音楽」人生とは？
- 第51回：女王陛下の帝王学と英國王室にみる男女関係
- 第52回：人と人、埋まらない心の溝
- 第53回：インド映画と奇妙な風景
- 第54回：キャスティング・カウチ？ 世界屈指の女性指揮者を主人公にしたスキャンダルとは？
- 第55回：グローバルなエンタテインメントの質を求めて～エンタテインメント界の性加害の終焉
- 第56回：マイノリティーのドラマを追い続ける映画界の今後



マイノリティーのドラマを追い続ける映画界の今後



PDF Download

アルソ出版
発刊楽譜
ダウンロード販売

PDF

スタート！



特集：
6人のプレイヤーが直伝！
演奏を華麗に輝かせる協奏
クラシックの名曲を
あなたのものに
カパー・ヤーノシュ・バーリント
THE FLUTE | 最新194号
FLUTE CLUB入会・更新はこちら
フルート楽譜一覧

ENTRY投稿・応募

>> THE FLUTE アンケートへ



関連記事

WEB連載 エンタテインメント・エッセイ
木村奈保子の
音のまにまに

平島オリビックと音楽

WEB連載 エンタテインメント・エッセイ
木村奈保子の
音のまにまに

MeTooの土壌、日本では？

WEB連載 Entertainment Essay
木村奈保子の
音のまにまに

女王陛下の帝王学と英國王室にみる男女関係

WEB連載 Entertainment Essay
木村奈保子の
音のまにまに

女性の告発に、なぜ目をつぶるのか

WEB連載 Entertainment Essay
木村奈保子の
音のまにまに

知るべきすべては音楽の中に――
楽縁を通して自分を表現する

WEB連載 エンタテインメント・エッセイ
木村奈保子の
音のまにまに

ヒロイックな女たち

WEB連載 エンタテインメント・エッセイ
木村奈保子の
音のまにまに

エリック・クラプトンへサウンド
とからむ生きざまの物語～

WEB連載 Entertainment Essay
木村奈保子の
音のまにまに

新しい生活様式とともに、新たな
文化を～！

今話題の人気記事

HOT TOPICS

WEB 限定！フルート楽譜
リンスの
フルードしくじり学

File:32 | 家物の持ち替え リンクスのフルードしくじり学

片山友隆
Swing Swing Flute!!!

第11回 | さかしは久美子のラジオに
出ました！

WEB 限定
木村奈保子の
音のまにまに

心が傷つき、抑圧されたヒューマン・モンスターは若者たちに共感を生むのか？

白井美穂

すべての疑問が解決したフラウト・トラヴェルソとの出会い

片岡尚子
音楽道可

フルートを、音楽を、より楽しむために。
理論に基づいた身体の使い方を広めたい。

Janos Balint
「音楽家としての人生」

コミュニケーションを楽しむながら、音楽が彩る人生とともに歩む

片山友隆
Swing Swing Flute!!!

第10回 | 書く書くしさがじか



THE FLUTE | 最新194号 THE FLUTE | バックナンバー

フルート楽譜一覧